

7 令和元年度 事業のまとめ

横浜市立図書館では、横浜市立図書館アクションプラン（第2期）に基づき、毎年「図書館の目標」を策定し、ホームページなどで公開しています。令和元年度は、アクションプラン及び図書館の目標に基づき、以下の事業を実施しました。

【重点項目1】市民の読書活動を支える図書館

(1) 地域特性に応じた読書活動の推進

- ・鶴見図書館（40周年）、中図書館（30周年）が、周年事業を実施しました。（P.33 表(4)）
- ・各区の読書活動推進目標に基づき、区と共催した読書講演会などを開催しました。連絡会や交流会を通して、区や区内読書関連施設等との情報共有や連携が進んでいます。

【区と共催した読書講演会の例】

図書館名	内容（タイトル）	開催日	会場	参加人数
中央	「ピリギヤル流不可能を可能に変える5つのルール」	11/10	中央図書館ホール	157人
鶴見	角野栄子氏講演会「物語の生まれるところ」	2/23	鶴見大会館	189人
神奈川	絵本作家・鈴木まもる氏講演会 「絵本と鳥の巣の不思議」ほか	1/26	神奈川区民文化センター	114人
南	絵本作家・柴田愛子氏講演会「子どものみかた」	1/25	南区役所1階多目的ホール	54人
保土ケ谷	齋藤孝氏講演会「読書力とコミュニケーション力」	1/18	保土ケ谷公会堂	432人
旭	青崎有吾氏講演会&旭図書館ツアー	7/27	旭図書館	40人
磯子	角幡唯介氏講演会『「読書」と「探検」』	10/20	磯子公会堂ホール	230人
栄	翻訳家・小宮由氏講演会「このよろこびをあのこに」	2/6	栄公会堂	58人

(2) 家庭での子どもの読書活動の支援

- ・図書館でのおはなし会や、地域施設等での出張おはなし会を実施しました。実施にあたっては読み聞かせボランティアの方に活躍していただきました。（開催1,823回、うちボランティア参加1,169回）（P.34 表(5)）
- ・子育て支援の講座として、保護者・市民向け読み聞かせ・わらべうた等の講座を実施しました。（52回、813人参加）（P.35 表(6)）
- ・家庭での読み聞かせに向く乳幼児絵本のリスト「おひざにだっこで楽しむ絵本」（30,000部）を、区役所の乳幼児健診や事業等で配布しました。



(3) 学校への支援と学校教育への協力

- ・学校司書研修等に講師として司書を派遣し、学校司書育成を支援しました。
- ・学校向け支援プログラムを各図書館で作成し、区内の小・中学校に対し、教職員向け貸出や図書館見学等の支援サービスを実施しました。（P.22 表(13)）
- ・学校向けセット貸出（※）について、既存テーマの追加や内容を更新しました。（既存テーマの内容更新1種、既存テーマの追加1種）
- ・学校図書館への支援として、「新刊案内：図書館から学校におすすめの本」の定期的な情報提供を行いました。
- ・学校図書館の現状や公共図書館に対するニーズを把握するため、学校図書館を訪問し司書教諭や学校司書にヒアリングを行いました。

※学校向けセット貸出：学校の授業で取り上げることが多いテーマ等について、テーマごとに20冊から40冊程度にまとめて貸出をしています。

(4) 地域の読書活動への支援

ア 読み聞かせ等ボランティアの育成と支援

- ・地域で活動するボランティア向けに、読み聞かせ講座等を実施しました。(P.35 表(7))
- ・図書修理や書架整理など、図書館の環境整備にボランティアが活躍しました。(P.35 表(8))
- ・南図書館は、区内で長年にわたり子どもの読書活動推進に貢献した市民グループ「子どもと本」を神奈川県図書館協会へ功労者として推薦し、表彰が決定しています。



第16回 港南区
おはなしボランティア交流会

イ ボランティア交流会等の実施

図書館や地域で活動するボランティアの交流会や懇談会を実施しました。(P.37 表(10))

ウ 横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム@戸塚区(中止)

2月22日(土)に、戸塚区役所を会場として、「横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム@戸塚区」の開催が予定されていました。公開読書会『イチロー・インタビューズ 激闘の軌跡 2000-2019』、司書教諭による講演会、おはなし会など様々なプログラムを準備していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により直前の中止となりました。



都筑図書館 学校ボランティア講座

(5) 障害のある方への情報提供支援

- ・令和元年度は中央図書館で製作した録音図書を、国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスに60件登録しました。ダウンロード件数は延べ7,414件となりました。
- ・平成30年度に引き続き障害の有無に関わらず、障害について考えるきっかけづくりや関連の図書館資料を紹介する企画事業を実施しました。
- ・平成28年度の養成講座を修了した視覚障害者向け録音図書音訳者に対して、平成29・30年度に引き続き令和元度もフォローアップ研究会を開催しました。

【障害についての企画事業】

事業名	開催日	内容
生き方や障害について 学ぶヒューマンライブラリー	12/8	障害者週間に合わせ実施しました。精神障害や身体障害のある方3組4名を講師として招き、その障害を知り、相互理解を深める対話型のイベントを行いました。

(重点項目2) 地域の情報拠点としての図書館

(1) 市民の課題解決と読書活動に役立つ資料の収集

横浜市立図書館蔵書5か年計画に基づき、各館ごとに年間資料収集計画を策定し、資料の収集を行いました。

(2) 資料の活用と情報発信

ア 中央図書館の主な取組

- ・デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」に、デジタル化資料を追加・公開しました。(252点)
- ・所蔵資料を活用した展示を実施し、関係機関と連携・協力することで展示内容の多様化及び充実を図りました。(75回)
- ・各区局や出版社、テレビ番組制作会社などからの申請を受け、市立図書館で所蔵している貴重資料の画像データを提供しました。提供したデータは、横浜市の広報や書籍、テレビ番組などで活用されました。



《都市横浜の記憶》追加資料より
「横浜宝塚劇場ニュース」

【中央図書館所蔵資料を活用した主な企画展示】

展示名	期間	内容
平成の横浜 10 大ニュース	4/16～5/19	平成の 30 年間の「横浜 10 大ニュース」パネルの掲示と関連資料を展示。 会場：中央図書館 3 階
関東大震災以前の横浜文化	7/17～8/12	8/3 開催の講座「横浜が関東大震災で失った 3 つの文化資源」に関連し、絵葉書などの資料を展示。 会場：中央図書館 1 階展示コーナー
生誕 110 年 中島敦展	10/16～11/4	横浜ゆかりの作家・中島敦の生誕 110 年にちなみ、関連する資料を展示。 会場：中央図書館 3 階



企画展示「平成の横浜 10 大ニュース」



企画展示「関東大震災以前の横浜文化」

イ 地域図書館の取組例

図書館名	内容	時期
神奈川	ラグビーワールドカップ 2019 PR 展	8/20～8/30
緑	区制 50 周年に伴う郷土写真の巡回展示	通年
山内	郷土写真の収集とパネル展示	1/15～2/16
都筑	資料展示「調べ学習に役立つ新しく出た子どもの本」	10/3～10/24
瀬谷	区制 50 周年に伴う地形図、写真の収集・展示	通年



神奈川「ラグビーワールドカップ 2019 PR 展」



山内 企画展示「横浜市青葉区 この街の記憶」

(3) 市民の学習活動・課題解決の支援

- ・様々なテーマによる図書展示を実施しました。「医療・健康情報コーナー」での健康関連テーマ、「ビジネス資料コーナー」における業界関連テーマなど、コーナーの特徴に合わせた展示の他、本市区局との連携による事業啓発や、改元に関連した展示など、時宜をとらえたテーマ設定に努めました。(通年)
- ・横浜市立図書館蔵書検索ページ内「レファレンス検索」及び、国立国会図書館レファレンス協同データベースにレファレンス事例を追加・公開しました。(35 件)
- ・本市区局及び専門機関と連携し、「ヨコハマライブラリースクール」等の講座を実施しました。(P. 30)
- ・調べ方のヒントやテーマ別の図書リスト、蔵書検索では探しにくい資料の目録を作成しました。利用者向けの他、横浜市職員の業務に役立つリストの作成にも取り組みました。(新規 9 点、改訂 16 点) (P. 36 表(9))
- ・事業の実施にあたっては、企画展示・講座・ブックリストなどを効果的に組み合わせ、多様な切り口からの学習支援・情報発信に努めました。



図書展示「環境を守るためにあなたにできること ~エコラベルから考える生きもののつながり~」



ヨコハマライブラリースクール

(4) 人材育成の推進

職位別に求められる実務能力・業務知識や研修計画を見直し、令和元年 5 月に「司書職人材育成計画」を改訂しました。新たな計画に基づき、司書の専門的能力向上のための研修を 33 回実施しました。

(重点項目3) 誰もが使いやすい図書館

(1) 広域相互利用の実施

横浜市と隣接する7市のうち5市（鎌倉市・横須賀市・川崎市・藤沢市・大和市）と広域相互利用を実施しています。これにより、横浜市在住の方が各市の図書館から直接本を借りられます。(P. 19 (9))

(2) 山内図書館の指定管理者による運営

山内図書館指定管理者選定評価委員会を4回開催して審査を行い、令和2年度から令和6年度までの期間、有隣堂グループ（株式会社有隣堂・三洋装備株式会社）の運営を決定しました。

(3) 利用者懇談会等の開催

市民の意見を反映した図書館運営を進めるため、各図書館で懇談会等を開催しました。(P. 37 表(10))

(4) 自主財源の確保及び経費の節減(広告事業)

ホームページのバナー広告掲載、館内のパンフレットラックの設置、広告を掲載した印刷物の製作などの図書館広告事業による令和元年度の歳入額は3,811千円、節減額は429千円でした。

(5) ふるさと納税(横浜サポーターズ寄附金)

平成30年度からふるさと納税(横浜サポーターズ寄附金)による寄附制度を開始し、令和元年6月末までに、107万6千円のご寄附をいただきました。この寄附金の一部を活用して、横浜市立図書館18館にある「初めて出会う絵本コーナー」の本、320冊を購入しました。

【コラム】 図書館の表彰

平成31年4月、緑図書館が「平成31年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)に対する文部科学大臣表彰」を受けました。この表彰は、子どもの読書活動について特色ある優れた実践を行っている学校・図書館・団体及び個人に対し、その実践をたたえるものです。横浜市の図書館では、都筑図書館、鶴見図書館に続き3館目の受賞です。

緑図書館は、乳幼児期から青年期までの子どもに対して、切れ目のない読書支援に取り組んでいます。乳幼児向けには、わらべうたや読み聞かせ講座のDVD作成、乳幼児向け絵本のセット貸出を実施しています。小学生向けには、市内で初めて「はじめてものがたりコーナー」(一人読みを始めたばかりの子ども向けの図書を集めたコーナー)を設置したほか、「夏休み子どもクラブ」として、工作会や講演会を開催するなどしています。中高生に対しても、ビブリオバトルの体験ワークショップ、「中高生のための文章術講座」を開催するなどしています。区や区内の子育て支援拠点及び読書関連施設との連携、ボランティアとの協働も、これらの子どもの発達段階ごとの効果的な取組を支えています。



表彰状を持つ緑図書館長(当時)